

国語 第三回

注意

- 1 問題は **1** から **5** までで、14 ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は五〇分です。
- 3 声を出して読むではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙にHB又はBの鉛筆(シャープペンシルも可)を使って明確に記入し、**解答用紙だけを提出しなさい。**
- 5 答えは**特別の指示のあるもの**のほかは、各問のA・イ・ウ・エのうちから、最も適切なものをそれぞれ一つずつ選んで、その記号の○の中を**正確に塗りつぶしなさい。**
- 6 答えを記述する問題については、解答用紙の決められた欄からは**み出さないように書きなさい。**
- 7 答えを直すときは、きれいに消してから、消しくずを残さないようにして、新しい答えを書きなさい。
- 8 **受検番号**を解答用紙の決められた欄に記入しなさい。
- 9 解答用紙は、汚したり、折り曲げたりしてはいけません。

1

次の各文の――を付けた漢字の読みがなを書け。

- (1) 初もうでで合格を祈願する。
- (2) 条約を批准する。
- (3) 話の趣旨は分かった。
- (4) 公共心の欠如を嘆く。
- (5) 流行は靡れるのが早い。

2

次の各文の――を付けたかたかなの部分に当たる漢字を楷書で書

- (1) 友人から本をアズかる。
- (2) マイキヨにいとまがない。
- (3) ジシヤクを用いて砂鉄を集める。
- (4) 雲が低くタれる。
- (5) この海のカンチョウウの時刻が迫ってきた。

3

次の文章を読んで、あとの各問に答えよ。（*印のついている言葉には、本文のあとに「注」がある。）

本村紗英は国立T大学の大学院生として植物学を研究しており、松田研究室に所属している。松田研究室に所属する院生は、同じく植物学の諸岡研究室と共同で使用する温室の大部分を使った罰として、諸岡教授のイモ掘りを手伝わされる羽目になってしまう。藤丸陽太は大学近くの洋食屋「円服亭」の店員だが、イモ掘りに巻き込まれてしまった。諸岡教授は藤丸の接客の姿勢を聞いて感心している。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(三浦しをん「愛なき世界」による)

〔注〕 川井——国立T大学の助教授。

加藤——国立T大学の院生で、松田研究室所属。

おイモの先生——諸岡教授のこと。
ファザード——建物の正面。

〔問1〕⁽¹⁾ 諸岡の言葉を嘸^かみしめるように、川井^{かわい}が言う。とあるが、「川

井」が「諸岡の言葉を嘸^かみしめ」たわけとして最も適切なのは、
次のうちではどれか。

ア 悪い成果主義や功利主義が幅を利かさないうように、研究者でない人にも自分たちの研究を研究者がわかりやすく伝える必要があるという教授の言葉に納得したから。

イ 自分たちの研究のように、すぐに結果が出ず、人の役にも立たないものにも研究費を下ろしてもらうためにも人々に研究の内容を説明する必要があるという教授の言葉に納得したから。

ウ 自分たちの研究のような、すぐに結果が出ないものであっても、研究者でない人に広い視野をもたせて理解させなければならないという教授の言葉に共感したから。

エ 今後は研究者は自分の研究に没頭する必要はなく、成果主義や功利主義がはびこらないように研究の現在を人々に説明する必要があるという教授の言葉に共感したから。

〔問2〕⁽²⁾でもとあるが、この表現から読み取れる「加藤」の気持ちと

して最も適切なのは、次のうちではどれか。

ア 料理を食べたいという動機がある人でも、その原料となる食材を食べたいと思う人は多くないのではないかと疑っている気持ち。

イ 誠実に基礎研究を行うことができたとしても、地味な研究であるという人々の捉え方は変わらないのではないかと訝^{いぶか}しんでいる気持ち。

ウ 人々の役に立つような研究結果がでたときに、その研究の基となるものまで意識する人は少ないのではないかと反論したい気持ち。

エ 基礎研究は人の役に立つようなものではないので、一般の人々はその面白さがわからないのではないかと嘆きたくなっていく気持ち。

〔問3〕⁽³⁾本村は深く納得した。とあるが、「本村」が「納得した」わけとして最も適切なのは、次のうちではどれか。

ア 今までは自分が研究を続ける動機は他者にわかってもらえないと思っていたが、諸岡の言葉で、その思いは別の誰かも抱いているかもしれないと考え、研究を行う上での希望を抱きはじめてから。

イ 今までは研究は自分の欲求から行う以上、成果が出て欲求を満たすのは自分だけだと思っていたが、諸岡の言葉で、誰かのためになるかもしれないと考え、研究への大きな動機を得たと思ったから。

ウ 今までは自分の研究はうつくしいものを追い求めたいという欲求から行っていたが、諸岡の言葉で、その要求は人間の根源的なものであるとわかり、自身の研究の新たな方向性を見いだしたから。

エ 今までは何かを知りたいという知的欲求が人間の根源的な欲求であることを知らなかったが、諸岡の言葉で、人類誰もが抱くことだとわかり、抱くのが自分だけでなかったことに安心したから。

〔問4〕⁽⁴⁾気弱モードだった諸岡を励まさなければと思っていたのに、逆に本村のほうが励まされてしまった。とあるが、このときの「本村」の様子に最も近いのは、次のうちではどれか。

ア 自分が見当違いの実験をしているのではないかと不安だったが、その不安は皆が抱えていることがわかり、親近感をおぼえている。

イ 自分は研究者として生きていけるかどうかについて悩んでいたが、諸岡の悩みの質と違うことがわかり、その違いの大きさに驚いている。

ウ 自身の研究者としての将来性に悩んでいたが、それは将来の可能性が拓けているからこそその悩みだと言われ、悩める自分を肯定している。

エ 理想とする研究者像に近づいていない自分自身に悩んでいたが、その悩みは若さ特有の悩みだとわかるも、憂う心をつのらせている。

〔問5〕⁽⁵⁾食べごろになるのが待ち遠しい。台所の薄暗がりのなかで七本のサツマイモがピロロドのようにあでやかだ。とあるが、この表現について述べたものとして最も適切なのは、次のうちではどれか。

ア 研究室の皆や教授たちとで、掘ったサツマイモを早く食べてしまいたいという本村の思いを写實的に表現している。

イ サツマイモにたとえた大学院生は、暗い現状に置かれているということを薄暗がりという言葉で技巧的に表現している。

ウ あと一、二週間ほど経てばサツマイモがもっと美味^{おい}しくなるということをピロロドにたとえて暗示的に表現している。

エ 基礎研究の重要性を認識し、素材としてのサツマイモが重要に見える様子をあでやかという言葉で印象的に表現している。

4

次の文章を読んで、あとの各問に答えよ。（*印のついている言葉には、本文のあとに〔注〕がある。）

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(鷺田清一「素手のふるまい」による)

〔注〕 コミットする——参加する、関わる。

〔問1〕⁽¹⁾ そのうちのある部分が、自治体や企業が「社会貢献」事業とし

て、アーティストにいわば丸投げするかたちで進められている
とあるが、アーティストが「丸投げ」されてもおワークシヨ
プを開催しようとするのはなぜか。次のうちから最も適切なもの
を選べ。

- ア アートの液状化を象徴する行為をしなければ、自分たちの芸術が世に受け入れてもらえないかもしれないという問題意識を抱えているから。
- イ アートとそうでないものが混ざりあった表現を通じて、今までの枠組みと違うところにアートの生き残る場を見いだそうとしているから。
- ウ 今までの枠組みを外れたところでのパフォーマンスを通じて、自分たちのアートの表現力を色々な人に知ってほしいと思っているから。
- エ アートの液状化を象徴するパフォーマンスから脱却し、今までの枠組みの外にあるサヴァイヴァルの場を見つけようとしているから。

〔問2〕 そのような人たちが人びとのあいだにあたりまえのように棲息^{せいそく}

することは、都市にとって、地域にとって、とても意味のあることだとおもう。とあるが、筆者がこのように述べたのはなぜか。次のうちから最も適切なものを選べ。

- ア アートは政治でも宗教でもない日常のことについて新たな選択肢を提示しうるものであり、現代人の需要を満たす価値観を提示できるから。
- イ アートはノン・アートとの境界が不分明であり、液状化しているものであるため、現代人も均一的な世界を生きることができるから。
- ウ アートは現代の閉塞的な状況を打破しうるものであり、アートが身近にあることで多くの人がその恩恵に浴することができから。
- エ アートは現代人に選択肢を与えうるものであり、アートを理解する心を通じて多くの人が現代の価値観を捉え直すことができるから。
- 〔問3〕 この文章の構成における第九段の役割を説明したものとして最も適切なものは、次のうちではどれか。
- ア それまでに述べてきたアートミーツケア学会について、その具体的な事例を紹介することによって、持論を強調している。
- イ それまでに述べてきたアートミーツケア学会について、その問題点を説明することによって、新たな論点をもたらしている。
- ウ それまでに述べてきたアートミーツケア学会について、その内容を端的にまとめることで、結論を導き出している。
- エ それまでに述べてきたアートミーツケア学会について、その言葉の意味内容を詳しくすることで、論をわかりやすくしている。

〔問4〕 この「一生懸命やるかどうかわかりませんが……」にわたしは

捕まった。胸をこじ開けられる思いがしたのである。とあるが、筆者がこのように述べたのはなぜか。次のうちから最も適切なものを選べ。

- ア この表現は、未来が〈必然〉ではないということも、自分の意志の有無も明らかにしないで、「自由」のすきまを言い当てているという言葉の妙が感じられるため、筆者の興味を引いたから。
- イ この表現には、未来への道筋が描かれておらず、また、自分の意志にもこだわっておらず、未来には〈偶然〉起ることがあるという考え方が感じられるため、筆者の琴線に触れたから。
- ウ この表現は、未来は〈必然〉のものではないという考え方や、自分の意志にすらしがみつけない潔さに、これまでにない「自由」の考え方があり、筆者が同意できるものとなっていたから。
- エ この表現には、過去・現在・未来をつなぐ存在である「わたし」が想起され、話者が未来には〈偶然〉起ることがあるという考えに思いが至っているため、筆者の胸を打ったから。
- 〔問5〕 国語の授業でこの文章を読んだ後、「日々の生活と結びついたアート」というテーマで自分の意見を発表することになった。このときあなたが話す言葉を、具体的な体験や見聞も含めて二百字以内で書け。なお、書き出しや改行の際の空欄、や。や。「なども、それぞれ字数に数えよ。

5

次のAは、能に関する対談であり、B及びCは、能を大成した世阿弥あみが書いた「風姿花伝」とそれを解説する文章の一部であり、
内の文章はBに含まれる古典の原文の現代語訳である。これらの文章を読んで、あとの各問に答えよ。（*印のついている言葉には、本文のあとに〔注〕がある。）

A

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(円地文子・白洲正子 「古典夜話」による)

B

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

C

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(林望 「すらすら読める風姿花伝」による)

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(林望 「すらすら読める風姿花伝」による)

〔注〕 謡——能の舞いに添えられる歌謡。

公達物——平家の身分の高い貴族を主役にした能。

世話物——町の人々を題材にした能。

仁和寺の守覚法親王——平安時代後期から鎌倉時代初期に生

きた皇族・僧。仁和寺は京都府の寺。

熊谷直実——平安時代末期から鎌倉時代初期の武将。

面——能面。

後白河法皇——一二二七～一一九二。第七十七代天皇。

建礼門院——一一五五～一二一四。高倉天皇の皇后。後白河

法皇の養女。

伊賀——現在の三重県の西北部。

為手——能・狂言の主人公の役。また、その演者。

謂——という意味。わけ。

職掌——職務分類の最も大きな分け方。

白拍子——平安時代末期から始まった男装の芸人。

〔問1〕 Aの中の〓を付けたア～エの「の」のうち、他と意味・用法

の異なるものをも一つ選び、記号で答えよ。

〔問2〕⁽¹⁾ 白洲さんの発言の、この対談における役割を説明したものとし

て最も適切なものは、次のうちではどれか。

ア 円地さんの、世阿弥が意図していたかどうかの質問に対し、表現を

わかりやすく言い換えることで、結論を導こうとしている。

イ 円地さんの、世阿弥が意図していたかどうかの質問に対し、結論を

明確に示さない形で、抽象的な発言をしようとしている。

ウ 円地さんの、世阿弥が意図していたかどうかの質問に対し、対照的

な二つの事例を紹介することで、話題を転換しようとしている。

エ 円地さんの、世阿弥が意図していたかどうかの質問に対し、主張を

具体例を挙げながら回答することで、話題を深めようとしている。

〔問3〕 Bの中の〓を付けたア～エのうち、現代仮名遣いで書いた場合

と異なる書き表し方を含んでいるものをも一つ選び、記号で答えよ。

〔問4〕⁽²⁾ 思ひゆゑの物狂をば とあるが、Bの現代語訳において「思ひ

ゆゑの物狂をば」に相当する部分はどこか。次のうちから最も適

切なものを選べ。

ア 何かこの世ならぬものが憑依するというような種類の物狂い

イ さまざまの悲しみの窮まるところに狂乱する物狂いは

ウ この悲しみの物思いによる物狂いの場合には

エ 心を込めて舞うならば

〔問5〕 A及びCのそれぞれにおいて、世阿弥の能における表現について

説明したものとして最も適切なものは、次のうちではどれか。

ア Aでは世阿弥の作品には古代信仰に基づく考えが込められているという意見があり、Cでは憑き物が憑く職掌の人間が幽霊の役で能を演じるのが望ましいと述べられている。

イ Aでは能に幽霊を取り入れたのは世阿弥の工夫によるものだという意見があり、Cでは霊が憑依した人物を演じる際には憑依する契機によって演じる難度が違っていると述べられている。

ウ Aでは世阿弥は平家を能にするために「花」を取り入れる工夫をしたという意見があり、Cでは人の霊が憑依する役では悲哀を表現することに注力すべきと述べられている。

エ Aでは世阿弥の能には「恋情」のようなものがあるという意見があり、Cでは神や鬼より実際に生きた人の幽霊を演じるほうが真似しやすく簡単であると述べられている。